



浦安市消防本部

URAYASU CITY FIRE DEPARTMENT

50th
since
1974

URAYASU CITY
FIRE DEPARTMENT

設立50周年記念誌

発行：浦安市消防本部



時代をこえ、
つないできた
想いがある。

since 1974



浦安市消防本部 設立50周年記念誌

浦安市消防本部設立50周年に寄せて

浦安市長	内田 悦嗣		4
浦安市消防長	高梨 俊治		5
浦安市消防団長	大川 三敏		6

浦安市消防本部の歩み

浦安消防の夜明け		8
1974年 消防本部・消防署設置		9
1975年 ～ 1984年		10
1985年 ～ 1994年		12
1995年 ～ 2004年		14
2005年 ～ 2014年		16
2015年 ～ 2024年		18
浦安市と消防 数字でみる50年		20

浦安市の消防体制

浦安市と消防の関わり、組織		24
消防組織図		25
消防本部		
消防署・出張所		
業務構成 指揮隊		26
特別救助隊		27
救急隊		28
消防隊		29
総務課		30
予防課		31
警防課		32
消防指令センター		33

ごあいさつ

浦安市長 内田 悦嗣



浦安市に常備消防が設立され、50年という大きな節目の年を迎えました。

昭和48年3月、浦安町に救急庁舎が完成、先行して救急業務を開始し、翌年昭和49年4月には、浦安町消防本部・消防署が設立され、本格的に消防体制が整い、今日に至っております。

今日まで、本市の消防行政の発展に大きくご貢献いただきました皆様に、深く感謝を申し上げます。

昨今、日本国内では大地震や記録的な豪雨などの自然災害が頻発しております。このような災害は、当然のことながら本市も例外ではなく、過去の教訓を活かし、日頃からしっかりと備えておく必要があります。市では、密集市街地の不燃化推進、幹線道路の液状化対策、緊急物資輸送道路の無電柱化等、防災機能の向上を図るべく事業を進めております。

「安全で安心して暮らせるまち」を構築するためには、消防本部が果たす役割は非常に大きく、欠かすことができないものです。今後も消防本部、消防団及び市が協力し、関係機関との連携を図りながら、さらなる防災力の充実・強化に全力を傾注してまいりますので、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

50周年を迎えて

浦安市消防長 高梨 俊治



浦安市消防本部・消防署は、昭和49年4月1日に「東葛飾郡浦安町消防本部・消防署」として設立し、このたび50周年を迎えることができました。

設立当時は23名の職員で消防業務をスタートいたしましたが、現在は9倍の207名の職員を抱える組織となりました。

この50年間、消防施設や車両をはじめ、各種装備を整え、大きく発展することができましたことは、これまでの消防長、諸先輩方、また明治の時代より長きにわたり浦安の消防活動を担ってこられた歴代の消防団長をはじめ、消防団員の皆様、そして本市の消防行政の発展のために多大なご協力をいただきました関係各位、すべての皆様のご尽力の賜物であり、心より敬意と感謝を申し上げます。

近年、社会情勢の高度化により、火災をはじめとする各種災害も複雑多様化しており、市民の皆様から寄せられる期待もより一層大きくなっております。これらの社会変化に対応するべく、常に先見の明を持ち、職員一丸となって消防の使命遂行に全力を尽くしてまいり所存であります。

今後も皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、設立50周年のご挨拶とさせていただきます。



50周年を祝して

浦安市消防団長 大川 三敏



浦安市消防本部が設立50周年を迎えられ、先人の消防関係者に深く敬意と感謝を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

さて、浦安市消防団の歴史については、明治27年2月の浦安村消防組設置まで遡ります。小型腕用ポンプにて消火活動を行っていた時代で、当時の方々には、現在まで続く消防団の礎を築いていただきました。その後、浦安町消防組、浦安町警防団、そして、消防団令が施行された昭和22年に消防団という現在の名称となり、今日にいたります。

昭和49年4月に設立されました浦安市消防本部とは、常に強い協力体制を築きながら、市民の生命、身体、財産を守るため日夜活動を続けてまいりました。

現在の浦安市消防団は、団本部と4つの分団で組織しており、近年は、放水資機材のみならず、油圧救助器具等も配備し、いつ発生してもおかしくないといわれる大規模な災害に備え、日々訓練に励んでおります。

大災害では、多数の負傷者の発生が予想されることから、地域住民の避難誘導や救出救護活動を的確に実施する必要がありますが、浦安市消防団は、これからも常備消防と確固たる信頼関係を保ち、さらに連携を強固なものとして、地域住民の安全を守っていく所存であります。皆様におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。浦安市消防本部設立50周年のご挨拶とさせていただきます。

浦安市消防本部の歩み



「自分たちのまちは自分たちで守る」と、防火・消火に取り組んできた住民たち。ともに助け合う精神こそが、浦安消防の礎です。

明治22年の浦安村防火条例施行に基づき、「防火取り締まり」および「防火夫」を設置。「消防組」、「警防団」、「消防団」と、時代を経て組織を変えながら、火災や災害から住民を守ってきました。その歴史を受け継いで、今日の浦安消防の姿があります。

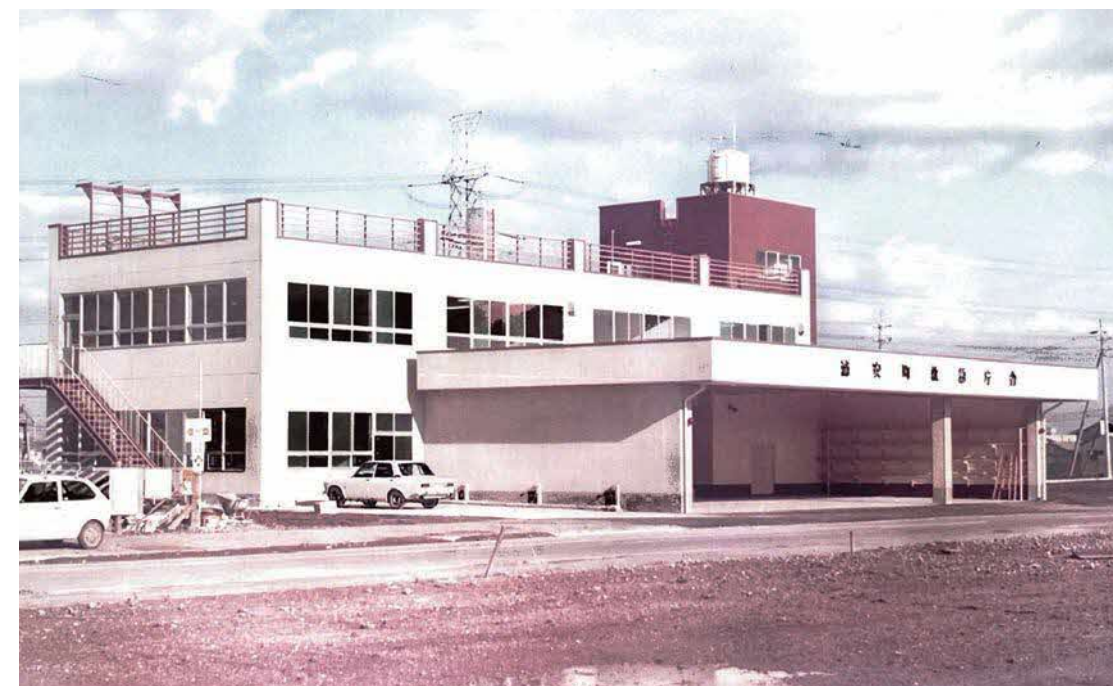


浦安市消防本部の歩み

1974

昭和49年4月1日

消防本部・消防署設置



昭和48年3月1日、浦安町海楽1番地(現:浦安市猫実一丁目19番22号)に鉄骨造2階建て、延べ969㎡、敷地3,000㎡の浦安町消防庁舎竣工。翌年4月1日、東葛飾郡浦安町消防本部・消防署が設置され、浦安市消防本部の歩みが始まりました。

水槽付消防ポンプ自動車1台、普通消防ポンプ自動車1台、救急車2台での発足でした。

浦安市消防本部の歩み 1975-1984

1975

昭和50年



幼稚園での避難訓練の様子
避難訓練の際にやってきた消防車と救急車に
園児たちは大喜び。

1976

昭和51年



救急隊の業務披露
葛南病院（現：東京ベイ・浦安市川医
療センター）に救急病棟が完成し、救
急車による患者の収容力が拡大。

1977

昭和52年



40
はしご車を購入

中高層建築物の火災発
生時に備え、はしご付
消防ポンプ自動車を新
たに配備。

1979

昭和54年



消防本部増築



今川出張所完成



初代救助工作車

1980

昭和55年



新春行事の消防出初式・訓練披露
浦安小学校の校庭にて、消防職員、消防
団員、消防協力隊が日頃の訓練を披露。
この冬一番の冷え込みかつ小雨の中、
ポンプ操法などを行う。屋上からの救助
訓練には、来賓者から大きな拍手が鳴り
響いた。

1981

昭和56年



水槽付消防ポンプ自動車寄贈
社団法人・日本損害保険協会から、
水槽付消防ポンプ自動車が寄贈さ
れる。

1981

消火にまつわる出来事

昭和56年に市内で発生した
建物火災のうち、
貸与消火器で
大火を免れた割合

39%

1975 - 1976

人口増加に伴う出来事

千葉県下市町村
救急車利用率 ※人口割

1位
1.8件

1日平均
救急車出場件数

1976

消防本部の状況

職員数

平均年齢

38名 28歳

社会の
情勢
・
動向

- 1975 東海大学付属浦安高等学校開校
- 1978 日本一の高層ビル、サンシャイン60完成
新東京国際空港（現：成田国際空港）開港
- 1979 入船地区にて第1回浦安市納涼花火大会
開催



- 1981 市制施行、浦安市の誕生
1889年浦安村、1909年浦安町と
発展をとげ、待望の「市」へ。
- 1982 首都高速道路湾岸線開通
- 1983 東京ディズニーランド開業



- 1984 富岡中学校と浦安南高等学校開校
順天堂大学医学部付属浦安病院開院
第23回ロサンゼルス・オリンピック大会
開幕、140の国や地域が参加
グリコ・森永事件発生、警察庁広域重要
指定事件初の未解決事件

浦安市消防本部の歩み 1985-1994

1985

昭和60年



富岡中学校校庭での地域防災訓練

対象地域は今川、富岡、東野地区。各自治会、管理組合、警察署、婦人の会、日赤奉仕団、医師会など約1,500人が参加。広報活動や避難、初期消火、人命救助、道路復旧、防疫の他、給水・給食活動など、本番さながらに展開。

1985

火災にまつわる出来事

昭和60年に市内で発生した火災件数

30件

不明、その他を除き、多かった火災原因の火元は

こんろ

1987

昭和62年



セーラー渡過を実施している救助隊員

1988

昭和63年



堀江出張所完成



所内仮眠室

1990

平成2年



40m級はしご車を使用しての救出訓練

1992

平成4年



出初式恒例の一斉放水

東小学校校庭で行われた出初式には、消防本部、署、消防団、市役所消防協力隊、合わせて約360人が参加。



地域密着型の防災訓練

社会の情勢・動向

1985 日本航空123便墜落事故
墜落場所、上野村は人口約2,000人。この地に当初1日約5,000人の事故対策関係者が集結。付近27団体、約300人と村民が一丸となり補助を行う。

1988 JR京葉線新浦安駅、舞浜駅の開通

1989 浦安誕生100周年



市章を公募
※制定平成3年

1989 「昭和」から「平成」へと改元



1990 第1回大学入試センター試験開始

1991 浦安市・市制施行10周年記念、第1回東京ベイシティ浦安ハーフマラソン開催、1,645人が参加

1992 サッカーアジアカップ日本初優勝
浦安市墓地公園が開園



1993 バブル崩壊で不況が深刻化

レインボーブリッジ開通

1994 明海小学校開校

関西国際空港開港

浦安市消防本部の歩み 1995-2004

1995

平成7年



平成7年七都県市合同防災訓練

阪神・淡路大震災を教訓に、都市型直下型地震を想定した訓練を強化。倒壊家屋からの救出が内容に加わる。市の地域防災計画も見直され、自主防災組織の設立など組織作りが急ピッチで進んだ。



1998

平成10年



救急相談と車両展示

JR京葉線新浦安駅前広場で、消防署職員による応急手当のデモンストラーションや救急相談を開催。同時に高規格救急車も展示。



普通救命講習会(消防本部内)

講師を囲み、熱心に胸骨圧迫と人工呼吸を試みる参加者の様子。病気や事故などで、呼吸と心拍が停止した人の蘇生を想定した講習会は、平成7年より、継続して行われている。

1999

平成11年

1999
火災にまつわる
出来事

	平成10年	平成11年
火災件数	44件	52件
焼損床面積	440㎡	239㎡

火災件数の前年比が8件増加するが、焼損床面積は減少。消防の現場到着時間の迅速化や、市民の消火器での初期対応が、被害軽減に貢献している。



市では昭和47年より各家庭に1本ずつ消火器を無償貸与。消防本部は定期的な薬剤の詰め替えを実施(当時)。

2000

平成12年



出初式、消防音楽隊の演奏

平成4年に隊員25名をもって発足した消防音楽隊。年毎に人数は増加し、式典や公共的な行事に積極的に参加した。演奏を通じて市民とのつながりをより強いものに。防火思想の普及および宣伝に努める。



2003

平成15年



8万7000人が楽しんだ
秋の市民まつり



6回目の浦安市民まつり。2日間にわたり、市役所周辺でビーナスマーケットなど賑やかに開催。境川では浦安囃子や投網の実演も披露された。消防本部は、消防車両の展示、防火衣着体験や放水体験などを実施した。



2004

平成16年



第25回八都県市合同防災訓練
広域に関わり合う首都圏の八都県市が、南関東地域での地震と東海地震を想定し、毎年実施する訓練。平成16年度は、浦安市が千葉県会場となり、約50機関、5,000人が参加する大規模な訓練となった。

社会の情勢・動向

1995 阪神・淡路大震災

兵庫県淡路島北部沖の明石海峡を震源とした、マグニチュード7.3の大地震が発生。犠牲者は6,434人にも達し、その多くは倒壊した木造家屋によるものとみられる。



1997 消費税率3%から5%に

1998 第1回浦安市民まつり開催(旧:浦安の産業まつり)

1999 第1回浦安三番瀬クリーンアップ大作戦開催

2000 舞浜にイクスピアリがオープン

2001 アメリカ同時多発テロ事件発生
浦安市郷土博物館開館

2002 おさんぽバス運行開始
バス交通の不便地域問題が解消。移動手段に制約のある方の利便性が向上した。



2003 東海道新幹線・品川駅開業

2004 アテネオリンピック開幕
新潟県中越地震で、新幹線の初の脱線事故発生

浦安市消防本部の歩み 2005-2014

2006

平成18年



倒壊家屋からの救出訓練(浦安市防災訓練)

2008

平成20年



建物屋上からの救出訓練(浦安市防災訓練)

2011

平成23年



東日本大震災 災害対策本部

市役所会議室にて、情報の共有を行う中でも、余震が続く。

2014

平成26年



積載水量は従来車両のおよそ6.7倍の10トン。浄水装置と5口の蛇口を備え、消火活動のほか、給水車としての機能も果たす。高速道路上など、消防水利の少ない場所で活躍する。



救助工作車更新(3代目)

特別救助隊が使用する車両。火災や自然災害のほか、交通事故での車内閉じ込めなどに対応。油圧救助器具など、万能な資機材を積載。— 平成18年



2007 消防本部の状況

職員数

161名

車両数

27台



給水車への充水

クリーンセンターのボイラー用水補給のため、給水車への充水活動を行った。



日の出出張所完成

新町地区の消防需要に対応すべく、消防体制の充実強化を図った。

社会の情勢・動向

2006 浦安市・市制施行25周年記念行事として「市民ふれあい25・25(ニコ・ニコ)フェスティバル」が開催される。パレードの他、総合公園にて公募により選ばれた団体のステージが繰り広げられた。

2008 日本人4人ノーベル賞
2009 裁判員裁判が始まる
2010 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
第1回ウラヤスフェスティバル開催



2011 東日本大震災

宮城県牡鹿半島の東南東沖130km(深さ約24km)を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。浦安市内では液状化によりライフラインが壊滅的狀態に。上水道断水と下水道使用停止、使用制限が約72,000世帯、ガス供給停止が約5,000世帯に上った。



浦安市消防本部の歩み 2015-2024...

2015

平成27年



総合公園での浦安市総合防災訓練

航空会社による被害状況確認訓練や救助犬による被災者捜索訓練、物資輸送訓練、陸上自衛隊による展示イベントなどを実施。

2016

平成28年



第19回浦安市民まつり消防ひろば

市役所庁舎周辺で開催された催しで、消防署は、体験型に特化したブースを開設。ちびっこロープ渡りや放水体験などを実施した。

2017

平成29年



防災訓練

step 1

台風の影響を受ける中、人命救助の実演を行った。まず倒壊家屋にチェーンソーで穴を開ける。



step 2

要救助者を発見すると、はしごクレーン救出にて救出開始。



step 3

救出完了後、担架に収容し、負傷者を迅速に搬送。

— 平成29年

2021

令和3年



救助工作車更新(4代目)



13mブーム付多目的消防ポンプ自動車

2022

令和4年



明海南小学校、明海中学校での水害を想定した訓練(浦安市総合防災訓練)

2024...

令和6年



消防力向上を目指す
アーバンリゾートゾーンを抱える市として、市内在住者だけでなく、来訪者の安全、安心も考慮した体制が必要。そこで舞浜地区に消防出張所配置を決定。この地域への平均現場到着所要時間が消防車で2.6分、救急車では2.7分短縮される。

2023

出場にまつわる
出来事

	令和4年	令和5年
火災件数	38件	41件
救助出場	111件	159件
救急出場	1万227件	1万814件

前年比で増加傾向にある
出場件数。各施設に適切な車両、部隊を配置し、
機器の更新も順次進める。

2024

救急搬送にまつわる出来事

日中の転院搬送数
増加につき
救急隊1隊増設(日勤救急隊)

日中 7 隊 夜間 6 隊

社会の 情勢 ・ 動向

2016 市役所新庁舎完成と旧庁舎解体
分散していた各課機能を集約、市民の利便性を高めた。さらに災害時の対策本部機能も強化した。旧庁舎解体跡地は浦安公園造成へ。

2019 「平成」から「令和」へと改元



2020 国内で初の新型コロナウイルス
感染者患者確認

2021 コロナウイルスに関し緊急事態
宣言発令(東京、埼玉、千葉、神奈川)
浦安市・市制施行40周年
東京2020オリンピック競技会開催

2023 市制施行40周年、千葉県誕生150周年
記念式典とパレードを実施

2024 浦安三社例大祭8年ぶりの開催
100基以上の神輿と山車が繰り出す4
年に一度の大祭。アフターコロナの8
年ぶりの開催に、大きく盛り上がった。



浦安市と消防 数字でみる50年

1975年 昭和50年	1979年 昭和54年	1981年 昭和56年
-------------	-------------	-------------



人口
(12月末数)



消防
職員数



車両数



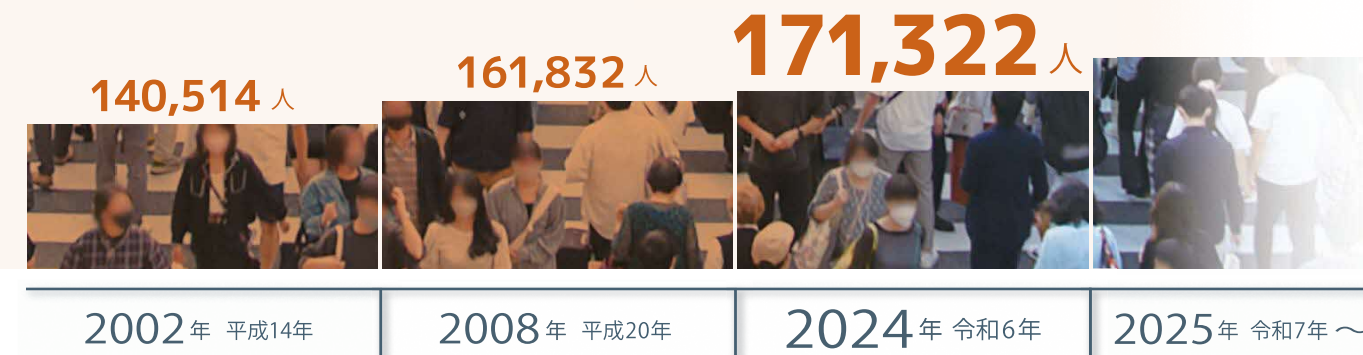
救急
出場件数



1964年より海面埋め立て事業が始まり、1975年の舞浜誕生以降数年の間に、急速な都市化と人口増加を遂げた浦安市。これにより消防本部各隊データの中でも救急隊の出場件数は、大幅に増加しています。さらに今後、国内外からの観光客の流入も鑑み、消防体制、人員を充実させていく必要があります。

2024年 令和6年	2025年 令和7年～
------------	-------------

18.79 km²



1974
Fire department
+ Urayasu City
since

浦安市の消防体制

ま
と
い

「纏」のもとに総力を結集して消火作業を行い、「纏」が火を消したとまでいわれる江戸消防のシンボル。

纏



2025年1月時点 左から

次長	佐野 隆
消防署長	山崎 政則
第十四代浦安市消防長	高梨 俊治
第十代浦安市消防長 浦安市退職消防職員親睦会 「荒神の会」会長	川口 利治
元次長 「荒神の会」副会長	高梨 能親
元副参事	大塚 壽
第十二代浦安市消防長	宇田川 智久

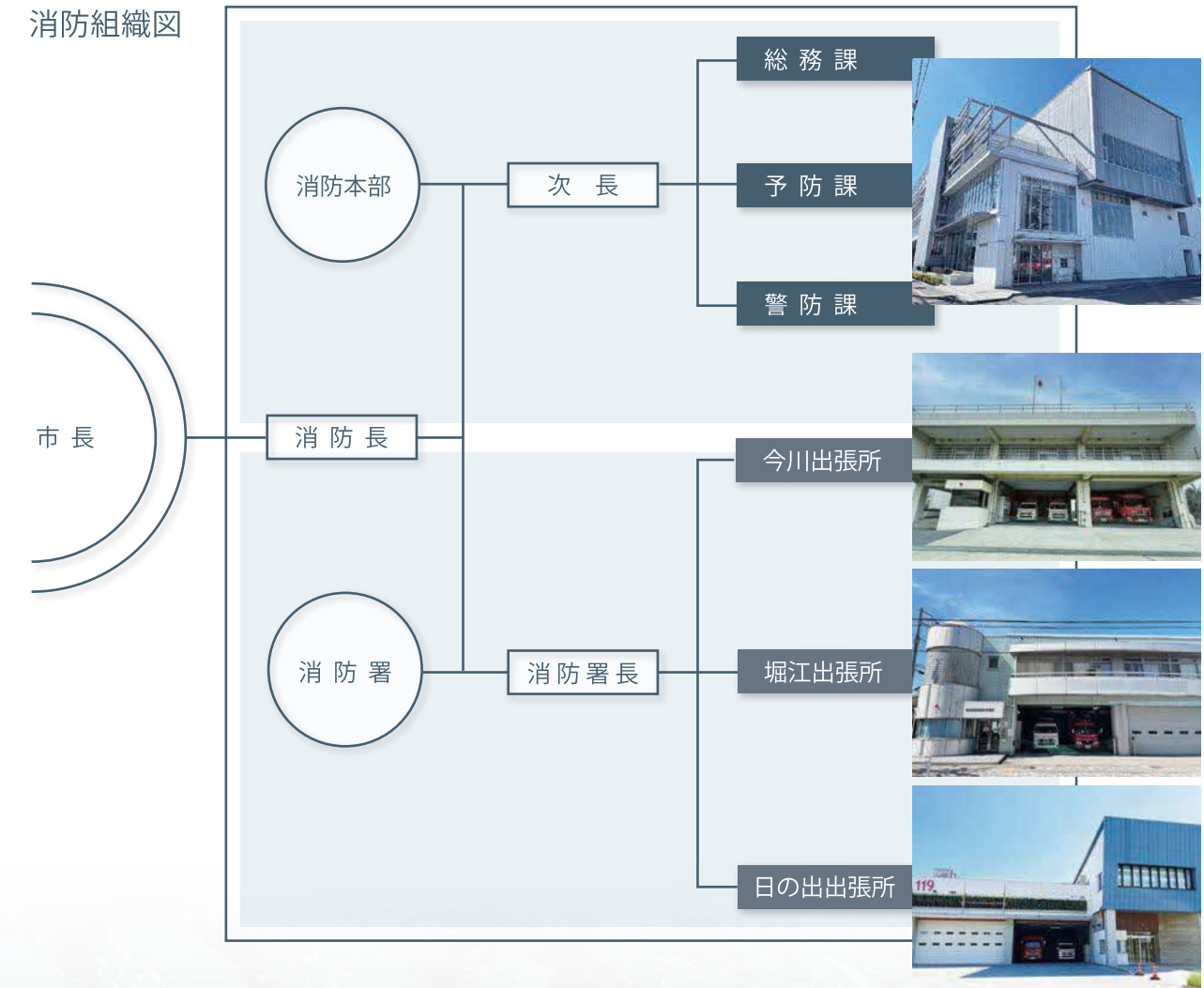
浦安市の消防体制

浦安市と消防の関わり、組織

水辺に囲まれた東京湾沿岸の街、浦安市。テーマパークを中心とした観光都市として知られていますが、千葉県で最も人口密度が高いベッドタウンでもあります。近代的な街並みや下町風情が残る住宅地、国内最大規模の鉄鋼団地など、多彩な魅力を持つ地域として、きめ細かな消防行政が求められています。

面積18.79 k m²の小さな街には約17万人が暮らしています。訪れる人は、年におよそ3,150万人。そして一日平均1.4万人ほどが宿泊滞在します。こうした多くの人々の命、財産を災害から守るため、私たち消防職員は、強い志、誇り、使命感をもって進化し続けています。

消防組織図





指揮隊

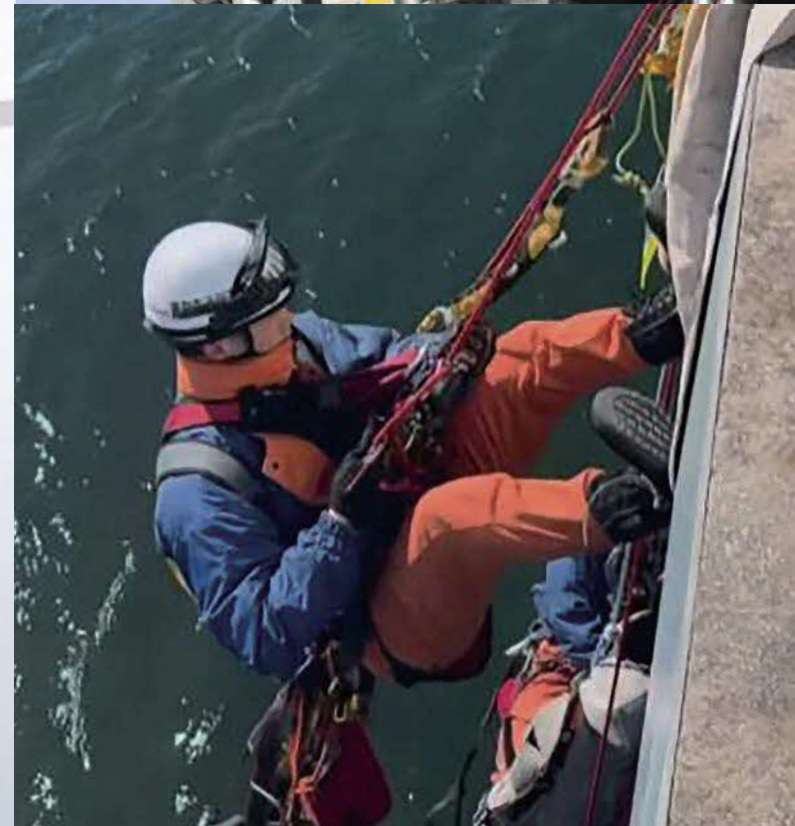
災害現場は、消防職員及び消防団員で構成する複数の部隊が共同して、組織としての総合力を発揮することで成り立つものです。指揮隊は災害対応や被害状況の把握を迅速に行います。部隊を効果的に展開するとともに、各種情報を収集・管理し、報道対応のほか、全般の安全管理を含め、災害現場の総合的な統括を行うことを任務としています。



特別救助隊

特別救助隊は、火災・交通事故・水難事故・災害等により命の危険にさらされている要救助者の救出に関する技術に特化した専門部隊です。救助工作車に積載した100種類以上に及ぶ資機材を活用し、最善の救助方法で要救助者を救出します。災害現場の状況は多岐にわたり、様々なシチュエーションに対応するべく、各種救助資機材を整備し、隊員は高度な救助技術を備えます。

全国の救助隊員が一堂に会する「全国消防救助技術大会」では、令和5年度に念願の全国制覇を果たしています。





救急隊

救急隊は、救急車に乗車して現場へ向かい、現場・救急車内で傷病者へ適切な処置を施しながら医療機関まで搬送する「プレホスピタルケア（病院前救護）」を担っています。

隊長・看護師・機関員の3名で構成されており、全ての救急隊には国家資格である救急救命士免許を有する職員を配置し、高度な応急処置を行うことで救命率の向上に努めています。



消防隊

消防隊は、火災現場での消火活動を主軸に活動する部隊です。

近年の建築技術の開発の高度化に伴い、複雑化する火災に対応するため高度な技術を有します。

火災出場以外にも、ポンプ車（P:Pumper）と救急車（A:Ambulance）が連携し救急処置を行うPA連携や救助活動などの幅広い事案に出場します。





総務課

総務課は、職員の服務・研修、消防施設の維持管理など、主に消防本部の管理的な業務を担います。また、住宅用消火器の貸出しや、消防団に関する事務についても担当しており、業務の種類が多いことが特徴です。

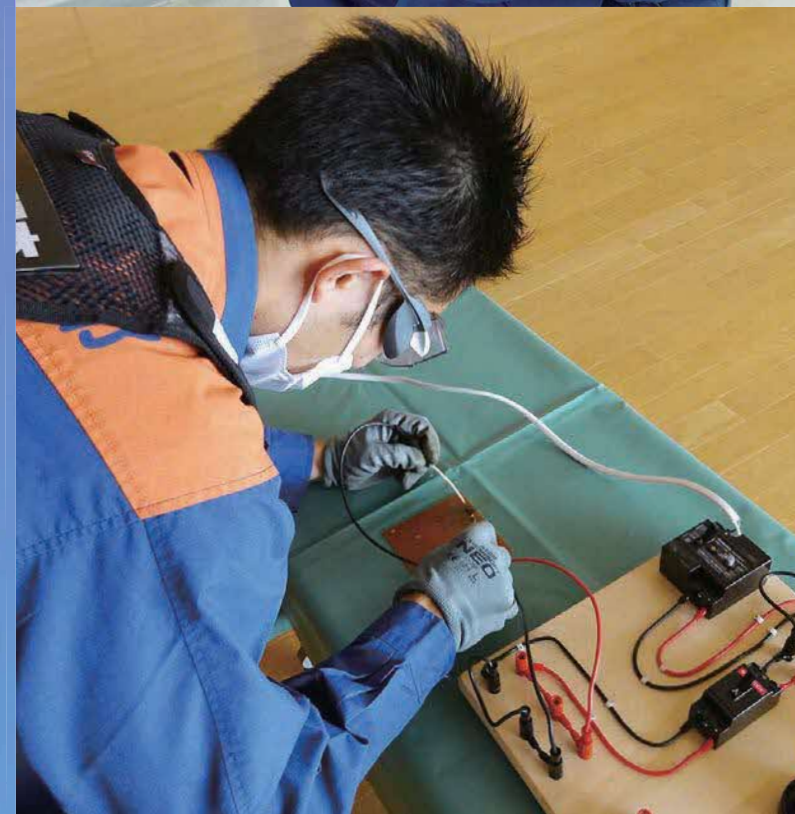


予防課

予防業務は、火災を未然に防ぎ、発生しても被害を最小限に抑え、その原因を調査・究明し、将来の火災予防につなげる目的があります。

業務内容は、建築物の新築・改築・増築の際に、消防法に則り消防用設備の設置等について指導し、既存の建物にも定期的に立入検査を行い、維持管理状況の確認を行います。また、危険物の保管等についても違反箇所があれば是正するよう指導します。

「火災予防は最大の人命救助である」という言葉があるように、消防組織において最も重要な部署であるといっても過言ではありません。





警防課

警防課では、各種災害に対応する職員の訓練計画や消防車両・資機材の充実強化、消防水利の設置・維持管理、宅地開発事業に対する行政指導などが主な業務です。また、主に市民向けに救命講習会を実施し、市民の方々に心肺蘇生法・AEDの活用方法等を普及させることで、現場に居合わせた方の応急処置による救命率の向上につなげています。



消防指令センター

浦安市は2021年2月から、千葉県松戸市にある「ちば北西部消防指令センター」にて、指令業務を共同運用しています。ちば北西部消防指令センターは、管轄する10市町村からの119番通報を一括で受信し、通報内容に合わせた出場部隊を編成して、管轄する消防本部へ出場指令を行います。

消防指令業務に関する高度な機能やシステムを1箇所に集約することで、新しい情報通信技術や住民ニーズの変化に迅速かつ適切に対応することができます。また、大規模災害などの際も、各自治体の消防本部だけでは十分に対応できない場合に、他市からの迅速な応援体制を確保できます。

浦安市からは4名の消防職員を派遣しています。

※令和6年4月1日時点





未来へ
渡していく
使命がある。
for Next 50years